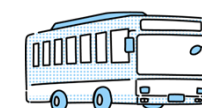



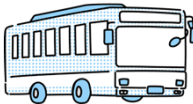
テーマ活動実施報告

- 令和 7 年度テーマ活動の実施概要.....1
- テーマ活動①「地域の方も、観光客も歩いて楽しめて、
商売繁盛につながるプログラムの検討」の報告.....2
- テーマ活動②「観光交通受け入れ環境整備を考える
意見交換会」の報告.....6
- (参考)テーマ活動①の詳細.....10



令和7年度テーマ活動の実施概要

- 令和7年度は、2つのテーマ活動に取り組んだ。

テーマ活動内容	開催日時 (場所は全て 首里杜館レビューホール)		参加者
<p>①地域の方も、観光客も歩いて楽しめて、 商売繁盛につながるプログラムの検討※</p> <p>令和6年度テーマ活動で作成した周遊の基本ルートの活用に向け、「気づいたら楽しく歩いている」をつくり、地域経済の活性化につながる実施プログラム（事業者ができる取組）を考える。</p> <p>※タイトルは、第1回合同部会(R7.8.28)で提示した文言から変更した。</p> 	第1回	2025年 10月20日(月) 8:00～10:15	<p>◎メイン参加者</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域事業者 (沖縄美ら島財団も含む) <p>◎事務局</p> <ul style="list-style-type: none"> ・首里まちづくり研究会 ・沖縄県 首里城復興課 ・那覇市 都市計画課 <p>◎オブザーバー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・那覇市 観光課
<p>②観光交通受け入れ環境整備を考える 勉強会</p> <p>交通課題や、これまでの交通施策に関する実施・検討状況の共有。あわせて、地域から提案のあった手法の実現可能性について議論を主軸に、合わせて観光交通の路上乗降や首里杜館駐車場の運用方法について意見交換を行う。</p> 	2026年 2月9日 (月) 10:00～12:00		<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民 ・沖縄県 (首里城復興課、都市公園課、平和地域外交推進課) ・那覇市 (観光課、都市公園課) ・観光事業者 (JTB、近畿日本ツーリスト、東武トップツアーズ) ・沖縄県バス協会 ・沖縄美ら島財団

テーマ活動①

「地域の方も、観光客も歩いて楽しめて、
商売繁盛につながるプログラムの検討」

の報告



テーマ活動①：地域の方も、観光客も歩いて楽しめて、商売繁盛につながるプログラムの検討

(1) 開催概要

開催日時		内容	地域事業者 参加人数
第1回	2025年 10月20日(月) 8:00～10:15	【情報共有】 <ul style="list-style-type: none">• これまでの協議会の取組みについて• 「首里の朝市」の取組みについて 【ワーク】 <ul style="list-style-type: none">• <u>なぜ首里で商売をしているのか？</u>を共有する• 「<u>困っていること</u>」、「<u>取組みたいができていないこと</u>」はなにか？を共有する	25人
第2回	2025年 11月25日(火) 8:10～10:00	【情報共有】 <ul style="list-style-type: none">• 人流モニタリングサービス「おでかけウォッチャー」で見る朝市の来場者数• データで見る首里城に来る観光客が利用している交通機関 【ワーク】 <ul style="list-style-type: none">• 第1回で出た「<u>困りごと</u>」を解決するための「<u>アイデア</u>」を3チームに分かれて考える	13人
第3回	2025年 12月15日(月) 8:10～10:00	【情報共有】 <ul style="list-style-type: none">• 地域事業者が行った観光客への聞き取りの結果• 県のオーバーツーリズム事業について• 人流データで見る周遊動向 【ワーク】 <ul style="list-style-type: none">• 4チームに分かれ、「<u>自分たちで取組みそうなこと</u>」、「<u>関係機関の協力があるとさらに効果がでそうなこと</u>」は何かをテーマごとに考える	13人

テーマ活動①：地域の方も、観光客も歩いて楽しめて、商売繁盛につながるプログラムの検討

(2) ワーク結果の概要

①なぜ首里で商売をしているのか (P8参照)

- ・ 首里に思い入れがあるから。地元で恩返しをしたい。
- ・ 沖縄や首里の地域資源を活かしたいから。
- ・ 首里の歴史的・文化的価値に惹かれたから。
- ・ 首里城の焼失をみてショックを受けたことがきっかけ。

③実施プログラムのアイデア (P16～19参照)

A. 公共交通を使って店舗に来てもらうためには 飲むなら乗ろうよ(公共交通に)プロジェクト

→首里 = “酒のまち” → 歩きメインのイメージをつくる

◎自分たちで取組めそうなこと

- ・ 最寄り駅からのルート情報を各店舗で情報発信
- ・ 各店舗の“推し酒”を紹介／各店舗でしか飲めない酒を提供

◎関係機関の協力があるとできそうなこと

- ・ 警察にキャッチコピーをアピールしてもらう
- ・ 首里城公園でお酒の歴史や、お酒が飲める店舗マップを展示

C. 首里を快適に歩くための仕掛け

首里に日かげをつくらうプロジェクト

◎自分たちで取組めそうなこと

- ・ 店前にパラソル設置 ・ レンタル日傘

◎関係機関の協力があるとできそうなこと

- ・ バス停に屋根をつけて日かげをつくり、ポケットパークの機能も。

→将来の展望：店舗の軒下やパラソル、屋根付きバス停など、日かげが連なり、店舗をはしごできるようになる。

②主な「困っていること」(P9～10参照)

周遊・マップ：観光客が首里のまちを歩かない、マップがない

交通・アクセス：公共交通を使わない・使いづらい

日かげ：日かげがない

新たな店舗：店舗が増えてほしい、空き物件がない

B. 「首里を歩くためのマップ」の内容や運営方法

◎紙マップとデジタルマップの連携が有効的

- ・ 紙マップ：高齢者や、すぐに情報が欲しい観光客向け。持ち運びやすいサイズにする。
- ・ デジタルマップ：すいまーいランのマップを活用。最新かつディープな情報を発信。

◎紙マップとデジタルマップの更新サイクルをつくる

- ・ デジタルマップの更新アカウントを各店舗に付与し、自分たちでこまめに最新情報に更新。
- ・ デジタルマップの最新情報を定期的に紙マップに反映し、印刷。

D. 3年後、素敵なマルシェ(朝市)が毎週開かれている未来のために、今何をするか

◎どんなものが売っていると地域も来訪者も楽しめるのか

- ・ 地域住民が喜ぶもの（味噌や豆腐、野菜、果物など）
- ・ 観光客・旅行者は後からついてくる

◎朝市の定期的（持続的）な開催のために

- ・ 朝市をラクに続けることが理想。管理者不要な状態がベスト。
- ・ 日曜朝8時に各店舗が開店するという文化にすればよいのでは。4

(3) 成果と課題

主な成果

◎地域事業者との課題の共有

- 地域事業者の多くが首里の住民であるため、地域事業者が抱く課題は、住民の課題意識と同じ方向を向いていることが確認できた。
- 特に、現状の直行直帰型観光が、地域の商売の機会損失にもつながっているという課題を共有できた。
 - ▶ 公共交通へのシフトこそが、周遊型観光と商売繁盛を両立させる鍵であることを確認した。
- また、地域事業者の中にも自店舗への公共交通でのアクセス方法を把握できていないケースがあるなど、新たな課題が抽出できた。
 - ▶ 地域事業者を対象とした「バス利用促進勉強会」を3月に開催する等、主体性のある活動につながった。 ※すいまち研主催

◎「まちづくりのステークホルダー」としての地域事業者の意識醸成

- 本テーマ活動を通じて、地域事業者に、自分たちの事業とまちづくりの関連性を意識してもらえたと思われる。協議会関係者も、地域事業者がまちづくりのステークホルダーだということを、改めて認識できた。

課題

◎実施プログラムの実現化に向けた課題

- デジタルマップ運用：県が作成したデジタルマップをどう活用するかに加え、情報更新・管理の担い手等を検討する必要がある。
- 道路空間活用：パラソル設置や朝市でのポケットパークの活用などを地域で柔軟に進めるには、道路管理者との調整や各種制度の活用が必要である。

◎組織づくりの検討

- 取組を継続的に実施するためには、必要に応じて地域事業者の組織化や、地域でのまちづくり会社の設立などを検討する必要がある。

◎事業者との継続的な連携

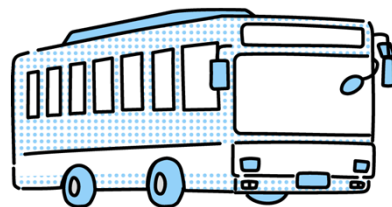
- 協議会として今後も地域事業者と連携しながら、取組を継続する必要がある。

◎その他

- 困りごととして「店舗が増えてほしいが、空き物件が不足している」ことが挙げられた。周遊促進とは直接関係しないため今回は扱わなかったが、まちづくりの一つの課題として認識する必要がある。

テーマ活動②

「観光交通受け入れ環境整備を考える意見交換会」 の報告



テーマ活動②：観光交通受け入れ環境整備を考える意見交換会

(1) 開催の背景と目的

【会議開催の背景・前提となる問題認識】

- 正殿完成後の渋滞と直行直帰観光を危惧し、渋滞対策と周遊促進を目的とした「首里杜館駐車場の廃止案」が地域より提案された。
- 現在、首里杜館駐車場予約制を導入しているものの、周辺道路では観光車両による路上乗降が確認されており、住民の移動に危険が生じている。

【会議目的】

- 地域提案の首里杜館駐車場（一部）廃止案についての意見交換
- 観光車両の路上乗降や、駐車場の運用改善についての意見交換
- 地域、行政、事業者ともに納得のできる観光交通受け入れ方策の検討と合意形成

(2) 開催概要

開催日：2月9日（月）10:00～12:00

参加者：28名

区分	団体名および参加人数
地域（9人）	NPO法人首里まちづくり研究会（4名） 古都首里のまちづくり期成会（2名） 城西小学校区まちづくり協議会（2名） 首里振興会（1名）
沖縄県（7人）	首里城復興課（2名）、都市公園課（2名）、平和地域外交推進課（3名）
那覇市（4人）	観光課（2名）、都市計画課（2名）
観光事業者（6人）	沖縄観光コンベンションビューロー（1名） <u>4者教育旅行部会（計5名）（親組織：修学旅行促進協議会）</u> ⇒JTB（1名）、沖縄県バス協会（1名）、近畿日本ツーリスト（1名）、 東武トップツアーズ（2名）
公園管理者（3人）	（一社）沖縄美ら島財団（3名）

テーマ活動②：観光交通受け入れ環境整備を考える意見交換会

議題1：首里城公園駐車場廃止、駅からの周遊について

議題（地域意見）

- 「直行直帰型の観光」から、首里城周辺を歩いて散策する「歩行周遊型観光」への転換をめざす。
- 首里杜館の地下駐車場利用を廃止し、「農業試験場跡地」や「崎山駐車場」からのパーク＆ライド方式の導入を提案。

主な検討結果

- 県では、首里杜館駐車場予約制や正殿入場事前予約制による「数のコントロール」を軸として、渋滞対策について検討する。また、公共交通利用促進・周遊促進策についての検討を進める。
- 周遊促進については、地域と事業者で連携しコンテンツ開発や情報発信に取り組む。

	議題に対する意見	検討結果
首里城公園 駐車場廃止・ 代替駐車場 整備について	<p>沖縄県</p> <ul style="list-style-type: none"> 首里杜館駐車場の廃止はリスクが大きく賛同できない（代替地での混雑、乗降場のキャパ不足、路上乗降の悪化・常態化、民間駐車場開発の助長、レンタカー・一般車による周辺のうろつき交通の増加等）。 渋滞対策については、駐車場及び正殿予約制により可能と考える。 <p>事業者</p> <ul style="list-style-type: none"> 業務の遂行や、安全性に支障が出る可能性が高く賛同できない。 来園者を大量輸送できるため、バスは優秀な移動手段である。バスをうまく使い共存すべき。 <p>地域</p> <ul style="list-style-type: none"> 本案が難しくても、公共交通利用促進やレンタカー対策は必須。 	<ul style="list-style-type: none"> 渋滞対策は、首里杜館駐車場予約制・正殿入場事前予約制による「数のコントロール」を軸に検討を進める。 公共交通利用・周遊の促進、レンタカー対策も併せて検討する。
公共交通利用 促進・周遊 促進について	<p>地域</p> <ul style="list-style-type: none"> 渋滞対策・周遊促進に寄与する公共交通利用促進策の検討が必須。 事前の情報発信（車で来てほしくないこと、歩くメリット・楽しみ方等）による公共交通への誘導や、モノレール駅からの「歩く環境」「案内」の充実が必要。 <p>事業者</p> <ul style="list-style-type: none"> エシカルトラベルの観点からも、公共交通利用を推進したい。 周遊や公共交通促進に関する情報発信があまりできていない。地域と連携してコンテンツの開発や、情報発信を行いたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 公共交通の利用促進について今後要検討。（案：地元事業者とのバス路線勉強会の開催、ショップでの公共交通の情報発信、公共交通利用者へのインセンティブ付与、事前の情報発信） 観光事業者と地域で連携し、周遊を促すコンテンツの開発や、情報発信に取り組む。

テーマ活動②：観光交通受け入れ環境整備を考える意見交換会

議題 2：路上駐車・駐車場運用の改善について

主な検討結果

- 首里杜館駐車場の部分的な一時乗降利用も視野にいれ、受け入れ台数の拡大を検討する。（県）
- 渋滞を発生させない前提で、観光・バス事業者も使いやすい予約システムへの改修を目指す。（県・事業者）
- 正殿入場事前予約制と駐車場予約制の連携について検討する。（県）

	意見	検討結果
現状の駐車場予約システムについて	<p>事業者</p> <ul style="list-style-type: none"> • 1年前からの予約受付してほしい。修学旅行の旅程決定の時期に合わせたい。 • キャンセル料返金を求める。行程変更後に連絡されない原因になる。 • 複数台まとめて予約できるようシステム改修を求める。 • 一時乗降枠の運用を求める。一時乗降場があれば受け入れ台数が増加し路上乗降が減少すると考える。 <p>沖縄県</p> <ul style="list-style-type: none"> • 一時乗降の運用次第では、渋滞の要因となる可能性もある。渋滞させない範囲で利便性が高まるような運用を検討したい。 	<ul style="list-style-type: none"> • 渋滞を発生させないことを前提に、観光・バス事業者が使いやすいシステムへの改修を目指す。 • 一部「一時乗降利用」としての運用について検討し、受け入れ台数の拡大を目指す。
駐車場予約制と正殿入場事前予約制の連携について	<p>事業者</p> <ul style="list-style-type: none"> • 駐車場予約制と、正殿入場事前予約制は連動させるべき。駐車できて正殿に入れないのでは、観光客からすると来た意味がない。 • 駐車場と正殿見学の予約時間がずれると路上駐車の原因になる。 <p>沖縄県</p> <ul style="list-style-type: none"> • 「駐車場は取れたが正殿見学の予約が取れない」といった不満や、予約時間のずれによる路上乗降の誘発といった、ミスマッチによるリスクは防ぐ必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> • 正殿入場事前予約制と駐車場予約制の連携のあり方について検討を進める。
路上駐車について	<p>地域</p> <ul style="list-style-type: none"> • 路上乗降車両を追い越すために、後続車がセンターラインを越えなくてはならず危険。 • 文書や注意喚起だけでなく、警備員を立たせる等実効性のある対策も必要。 <p>事業者</p> <ul style="list-style-type: none"> • 旅程確定後に駐車場予約が取れなかった場合、バス側の本意ではないが、やむを得ず一時乗降をしなければならない状況がある。 • 一時乗降場があれば路上乗降を減らすことができる。 <p>公園管理者</p> <ul style="list-style-type: none"> • 駐車場を予約せず路上駐車を行うインバウンド対応の事業者がいる。 • 注意看板の設置、チラシ等での周知、警察との連携が必要であると考えます。 	<ul style="list-style-type: none"> • 駐車場運用・システムの改善による受け入れ強化により、路上乗降の発生を未然に防ぐ。

(参考)テーマ活動①の詳細



開催日：2025年10月20日(月) 8:00～10:15 参加者：25人

(1) 自己紹介からわかった「なぜ首里で商売をするのか？」



■首里に愛着があるから

- 地元で恩返しをしたい。
- 首里の方から昔の話を聞いて、「住ませていただいている」という気持ちや、責任感が大きくなってきた。
- 妻が首里に愛着があり首里の物件を探してきた。(首里城焼失もあり) 周りからはリスクが高いと言われたが、逆に今、盛り上げる必要があるということで首里で働いている。
- 市外で住んでいたマンションから見える首里のまちが好きだった。

■沖縄や首里の地域資源を活かしたい

- ホテルのショップで勤務していたが、輸入品を売ることには違和感を覚えた。沖縄のものを発信したい。
- コロナ禍で芸大祭が無くなってしまったので、空いていたスペースをアートギャラリーとして貸し出した。
- 食を通じて、地元や世界に貢献していきたい。
- 工芸の良さを伝えるために、お店を開業した。

■首里の歴史的・文化的価値に惹かれた

- 歴史・文化が多く残っている首里で、文化活動ができることは何か意味があるのではないかと。
- 沖縄の酒はここから始まったこと、首里の水が酒づくりに合うことから、開業時から絶対に首里でお酒をつくりたいと考えていた。

■首里城火災がきっかけ

- 県外にいたときに首里城の焼失を見てショックを受けた。

(2) 「困りごと」と「解決アイデア」

項目	困りごと	アイデア
周遊／マップ	<p>【観光客が首里のまちを歩かない】</p> <ul style="list-style-type: none"> 首里のホテルでも国際通りへ行く宿泊客が多い。首里にも行ってほしい。 観光客が首里城へ行ってすぐ帰ってしまう。首里城城下町も訪れてほしい。 モノレール首里駅から歩いて来る人が上の毛を通過して首里城へ行ってしまい、龍潭通りを通過してくれない。 <p>【マップがない】</p> <ul style="list-style-type: none"> <u>首里のマップがほしい (3グループ)</u> マップが最新情報に更新されていない 	<ul style="list-style-type: none"> モノレール首里駅から龍潭通りへ導く看板設置 食べ物や歴史、文化などカテゴリーで分けたマップ 統一性のあるマップ モノレール駅や龍潭通りにもマップを設置し、現在地がわかるようにする マップをホテルでも周知する
交通アクセス	<p>【公共交通を使わない・使いづらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> 二次交通が足りない バスの便が少なく、バス情報が足りない 交通手段がわかりづらい 車移動が中心となっている <u>駐車場が足りない (2グループ)</u> <p>【観光バスが足りない・環境整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> 貸し切りバスが不足している バスの待機場がない 	<ul style="list-style-type: none"> バスを停めていい場所等のルールが決められていたほうがよい
日陰	<ul style="list-style-type: none"> バス停を含め、日陰がない 	<ul style="list-style-type: none"> 日陰を生むアーケード化

(2) 「困りごと」と「解決アイデア」

項目	困りごと	アイデア
新たな店舗	<p>【店舗が少ない】</p> <ul style="list-style-type: none"> ホテル周辺に飲食店が少ない <u>お店（個人経営）がもっと増えてほしい(2グループ)</u> 夜に行けるお店がない <p>【店舗用物件が少ない】</p> <ul style="list-style-type: none"> <u>空き物件がない（2グループ）</u> 大家さんの気持ちを知りたい 	
生活／交流	<ul style="list-style-type: none"> <u>生活用品を買う場所がない・増えてほしい(2グループ)</u> <u>ゆんたくの場がほしい（2グループ）</u> 住民とのコミュニケーションをとりたい（イベントを望んでいるかどうかも含め） 住民と知り合う機会がほしい 	<ul style="list-style-type: none"> 住民と事業者の連携が必要
その他	<ul style="list-style-type: none"> <u>観光よりも地元重視でいきたい（2グループ）</u> 金城町の石畳は摩耗によりつるつると滑るが、修繕ができない。 	



開催日：2025年11月25日(火) 8:10～10:00 参加者：13人

テーマ①「公共交通で来てもらうためには」



困りごと・課題

青字：第1回での意見



- ・二次交通が足りない
- ・交通手段がわかりづらい
- ・車移動が中心となっている
- ・駐車場が足りない
- ・バスの便が少なく、バス情報が足りない
- ・店側がバスの情報を知らない

アイデアの種

特典	<ul style="list-style-type: none">・公共交通利用者に特典をつける。・モノレール駅から首里城までの道中に首里城入場券をお得に事前購入できる場所があればモノレールで訪れる人が増えるのではないかと。（美ら海水族館のチケットをコンビニでお得に購入できるように）
情報発信	<ul style="list-style-type: none">・"公共交通が便利"という発信をする（空港のインフォメーションなど）・空港に首里専用ブースを設ける（情報発信、プラン提案）・飛行機やモノレールでの情報発信。・モノレール那覇空港駅で周遊マップを配布 + お店でも配布。・公共交通利用後の周遊ルート・プランがあるとよい。情報発信も必要。・パークアンドライドを推奨する。シェアサイクルとの組み合わせもよいのでは。 →朝市で、てだこ浦西駅でのパークアンドライドをインスタで告知したところ、実践した方が多かった。・一発でわかるバスアプリの開発（多言語対応） →SCSKに作ってもらう？・事業者が、バスの路線と、どこに行くかを知っておく。・健康×歩くをすすめる。
利便性・満足度の向上	<ul style="list-style-type: none">・空港や国際通りから首里直通の便をつくる（バス・モノレール）・レンタル自転車のポートが増えてほしい。・モノレール首里駅に"首里感"を出す。・バスの待ち時間を有効活用してもらう。（コーヒー追加一杯いかが？）



テーマ②「首里についてからの情報提供」

困りごと・課題		青字：第1回での意見
<ul style="list-style-type: none">・観光客が首里城へ行ってすぐ帰ってしまう。首里城城下町も訪れてほしい。・モノレール首里駅から歩いて来る人が上の毛を通過して首里城へ行ってしまい、龍潭通りを通過してくれない。・首里のマップがほしい		<ul style="list-style-type: none">・マップが最新情報に更新されていない・モノレール駅からホテルまでの道がわからず、キャリーケースを引きながら迷っている外国人観光客がいる。・モノレール市立病院駅からのルートも必要・店側がバスの情報を知らない（再掲）
アイデアの種		
情報提供の場所	<ul style="list-style-type: none">・モノレール那覇空港駅で周遊マップを配布 + お店でも配布（再掲）・モノレール改札の目立つところに、首里のまちや店舗情報、SNSを掲示。（バス利用者にも）・ホテルから地元のスーパーに行けるような情報発信（マップ等） →地元のスーパー（サンエー、ジミーなど）の袋を持っているホテル客もいる。	
情報提供の媒体	<ul style="list-style-type: none">・デジタルとアナログを両方使う。・駅で情報提供している内容を、周辺の店でも共有・拡散できる！また、店が個別で持っているネットワークで情報発信できる！（朝市の際、インスタで首里への行き方を説明⇒モノレール駅の利用が増えた。）・フリーペーパー・パンフレットを、店頭など目に付く場所に置く。情報が必要な人に渡す。 →朝市のフライヤーは活用されている！高齢者などに向けて、紙のマップは必要。小さいサイズのマップはどうか、手に取りたくなるデザインがいい！やりたい人でお金を出しあえばできちゃう!?・QRコードを読みとってもらおう。QRコードならアンケートの収集もできる！	
情報提供の内容	<ul style="list-style-type: none">・多言語で発信する。店の情報や、バス停が見える化する。（バス停の場所や時間、どこ行きかなど。バスの便数や所要時間は、ネット検索ではわかりにくい。情報提供側も、丁寧に、正確な情報を伝えたい。）・分野別（食・美・・・）で情報を発信・公共交通利用後の周遊ルート・プランがあるとよい。情報発信も必要。（再掲）	
城下町公式インスタ	<ul style="list-style-type: none">・城下町の公式インスタがほしい （最新の情報が見れる！公共交通の情報もわかる！担当をつけてSNSの運用）	

テーマ③「日影問題/楽しんで歩いてもらうためには」

困りごと・課題

青字：第1回での意見

- ・バス停を含め、日陰がない
- ・大荷物があると歩こうと思わないのでは？
- ・暑い中歩いてくれるのか

アイデアの種

楽しんで歩いてもらうためのコンテンツ

- ・首里のキャラクターを芸大生につくってもらって、スタンプラリーや写真スポット、キャンペーンで活用。
- ・キャラクターの活用（若い子に向けて、キャラ集めのゲームを使う）
- ・ポケふた（ポケモンが描かれたマンホール蓋）を目的に訪れる人もいるため、活用できないか。
- ・シールなど、店ごとにオリジナルグッズを出して集めてもらう。
- ・周遊マップを活用してスタンプラリーを実施し、クリアで特典

日陰をつくる

- ・今からでも街路樹を植える
→無電柱化を進めるのなら、電柱跡に木を植えられる！道路整備も必要？
→ポケットパークがもっとあったらよい
- ・レンタル日傘は現実的にできるのでは？課題はあるけど...
- ・パラソルよりもオーニングが良いのでは？
→ワイヤーを張って、幕を伸縮できるものなど
→パラソルなら地上設備に設置できるかも



アイデアの種

新たな空間をつくる

- ・荷物預かり場所を設置する
→身軽だと歩こうとってくれるのでは？
- ・ポケットパークがもっとあるといい
- ・首里に観光案内所をつくる
→那覇にはあるが、首里に頼れる観光案内所がない
- ・公民館（ムラヤー、倶楽部）の活用
→休憩所や給水所、案内所として活用
→人が常駐する必要はあるが、地域の人との交流は観光客に求められているのでは？
→赤田や当蔵では可能性ありそう！
- ・店が連なるように増えたら良いな
→行きたい店があれば自然とみんな歩く！
→一息ついてまた歩ける
- ・道路に車両を入れなくして、空いたスペースを活用
→露店スタイルの店舗を誘致
→バルセロナでは、スーパーブロック（いくつかの街区をひとかたまりにし、その内部への自動車の進入を抑制する）の事例がある

その他

- ・夏をあきらめる。朝と夜のみ秋冬に集中！
- ・レンタル自転車でカー巡りをしている人もいる

テーマ④「新しい店舗」

困りごと・課題

青字：第1回での意見

- ・ホテル（ノホテル沖縄那覇）周辺に飲食店が少ない
- ・夜に行けるお店がない
- ・お店（個人事業）がもっと増えてほしい
- ・スーパーが少ない
- ・空き物件がない
- ・空いている土地がない
- ・大家さんの気持ちを知りたい
- ・龍潭沿いのトイレの場所があまり知られていない。



アイデアの卵

<p>回遊性強化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・店が連なるように増えたら良いな。（再掲） →行きたい店があれば自然とみんな歩く！一息ついてまた歩ける。
<p>地域住民も視野に入れた取組・機能</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・定例化した、朝市のようなものを行っても良いのではないか。（※大変だということとはわかっているけど。。。） →生活に必要なものがそろうマーケット。 →ゆんたく・交流の場になる（→そういう場に観光客も行きたいのではないか） →旧市街地（城下町）の記憶を感じることができるといい体験。 ・宜野湾市のハッピーモア市場のような機能の施設があると良い。 →観光の方も訪れるし、地元の方も利用できる。（高くても売れる） →お店を持たずに販売できるため、首里でお店を出したい人がスタートしやすい。 →首里城近くに売地に出ている広い土地がある（7000万円ほど） →クラウドファンディングで首里の事業者から資金を調達する。
<p>利便性・満足度の向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・龍潭沿いのお手洗いの場所を示すサインの設置（マップも） ・公園に子連れが遊べるようなアスレチックがあるといいな。 →周辺にお店がたくさんあるため、お腹がすいた際にも飲食できる強みがある。



その他の課題

- ・タクシーが通らない
- ・首里城公園前の交差点に、マナーの悪いタクシー会社が、常に3台くらい止まっている
→別のタクシー会社に乗ろうとするとクラクションを鳴らして、罵声を浴びせてくる。交通の妨げにもなっている。

開催日：2025年12月15日(月) 8:10～10:00 参加者：13人

「自分たちで取り組みそうなこと」、「関係機関の協力があるとさらに効果がでそうなこと」をテーマごとに4つのチームに分かれて行った。

チーム	テーマ
1	公共交通を使って店舗に来てほしいというメッセージを伝えるためには
2	多くの方が必要だと感じている「首里を歩くためのマップ」の渡し方を精査してみよう (デジタル案、紙案)
3	日影？ベンチ？看板？ 首里地区を快適に歩くための仕掛けを考えよう
4	3年後、首里の暮らしが充実する生活に根ざした素敵なマルシェ（朝市）が毎週開かれている未来があったら、今何をする？



テーマ
1

公共交通を使って店舗に来てほしいという
メッセージを伝えるためには



問1. 自分たちで取り組めそうな企画「〇〇プロジェクト～キャッチコピー～」を考える

現在の公共交通の利用状況	アイデア
<ul style="list-style-type: none">・住民・地域事業者：公共交通の利用は少ない。 主な移動は徒歩か車。 空港に行く際はモノレールを利用。・観光客：イベント時は公共交通利用が多い。 (モノレールの方面に歩いていく)	<p>首里＝“酒のまち” → 歩きメインのイメージをつける</p> <ul style="list-style-type: none">・最寄り駅からのルート情報があつたら良い。 ⇒各店舗のインスタ活用（〇〇駅から徒歩△分）・駐車場は料金が高いというアピールを行う。・推し酒フェア。（各店舗の“推し酒”を紹介）

→キャッチコピー：飲むなら乗ろうよ（公共交通に）プロジェクト

問2. 関係機関の協力があるとさらに効果が出そうな企画を考える

協力してもらいたい関係機関	内容・今後の展望
警察	<ul style="list-style-type: none">・キャッチコピーをアピールしてもらう。
首里城公園管理者	<ul style="list-style-type: none">・首里城でしか飲めない酒を販売。・お酒の歴史を常設展示。 ⇒お酒が飲めるお店のマップを展示。（更新しやすいようマグネット式） ⇒家族連れへの情報提供も行う。（お酒以外の楽しめる場所など）・公共交通まつり。（長期的視点） ⇒子供たちがタクシーに乗る。（交通安全教育）
各店舗	<ul style="list-style-type: none">・それぞれの店舗でしか飲めないお酒を提供する。

→その他関係者：酒造関係者、バス・モノレール・タクシー会社

テーマ
2

多くの方が必要だと感じている「首里を歩くためのマップ」の渡し方を精査してみよう（デジタル案、紙案）

問1. 紙案とデジタル案それぞれ、誰に（どんな客層に）・どこで・どうやって・どんな内容が効果的か？

	紙マップ	デジタルマップ
周知場所	・首里城公園、鳥堀交差点付近、各店舗にて配布	
内容	<p>ターゲット：高齢者、すぐに情報のほしい観光客 ⇒首里観光は初日or最終日が多い。 ⇒店頭でぱっと渡せる。</p> <p>・デジタルマップの抜粋版。 ⇒地区別、テーマ別、ルート別など</p> <p>・バス停、バスの行先をのせる。</p>	<p>ターゲット：スマホで情報をとれる人（全世代） ⇒首里に来ている人、各店舗のファン</p> <p>・すいまーいランのマップを活用する。 ・紙マップより深い情報 ⇒おすすめ商品、お店のストーリー</p> <p>➡見てもらうきっかけ作りが課題</p>



問2. マップを利用してもらうための工夫や運営（更新）はどうするべきか？

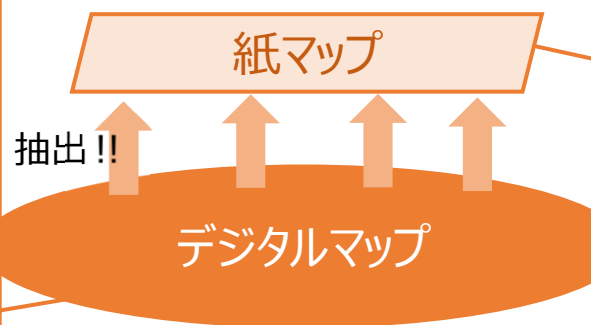
デジタルマップ

【使ってもらうための工夫】

- ・QRコードを読み込みたくなる工夫。
- ・店紹介にキャッチコピーを付ける。

【マップの運営（更新）の流れ】

- ・各店舗に更新アカウントを付与。
 (自分たちで更新する) ➡**要検討!**



紙マップ

【使ってもらうための工夫】

- ・持ち運びやすいサイズにする

【マップの運営（更新）の流れ】

- ・半年に一回自分の店の周りの紙マップを印刷

紙マップの更新とデジタルマップの更新を同時期に行う。(更新サイクルを作る)

テーマ
3

日影？ベンチ？看板？
首里地区を快適に歩くための仕掛けを考えよう



問1. アイデアのリストをつくる。

アイデア	
レンタル日傘	・モノレール 首里駅・儀保駅にステーションを設置。
荷物預かりスペース	・日傘ステーションと同じ場所に設ける。(モノレール 首里駅・儀保駅)
休憩所づくり	・公民館(首里公民館など)やSuikaraを活用(個人店舗だと休憩所をつくるスペースがないところが多い) ・気軽には入っていいことを伝える ⇒給水場を設ける(ホテルが現在取り組んでいる) ⇒周遊マップを配布する
店前パラソル設置	・現在、店前にパラソルを設置している店では、学生が使ったりしている ・龍潭通りでパラソルデザインを統一してはどうか。 ・オーニングのほうが日かげをつくれる? ⇒しかし、道路管理者の許可が必要等課題もある。

問2. 一番やりたいことのタイトルとサブタイトルを考える

プロジェクトタイトル: 首里に日かげをつくらう

- ・自分たちでできそうな取組・・・パラソル設置とレンタル日傘
- ・関係機関の協力によりできるかもしれない取組・・・バス停に屋根をつけて日かげをつくる。ポケットパークとしての機能も付与。

→将来の展望・・・店舗の軒下やパラソル、屋根付きバス停が連なることで、店舗をはしごするようになる。 21

テーマ 4

3年後、首里の暮らしが充実する生活に根ざした素敵なマルシェ（朝市）が毎週開かれている未来があるとしたら、今何をする？

問1. どんなものが売っていると地域も来街者も楽しめるのか、リストアップしてみる。

- 味噌や豆腐、野菜・果物、おやつ
(ただし、現実的には販売するには場所が必要。)
- 首里内外を含め、地元が喜ぶものがよい ⇒ 観光客・旅行者は後からついてくる



問2. 問1のために必要なアクションをリストアップしてみる。

理想：朝市をラクにつづける。管理者不要な状態になればベスト

課題	アイデア
現在の朝市の開催について • 管理、マネジメントが大変。 (ボランティアで行うには限界がある)	→ • 管理費をとるのはどうか。 • 管理をせず、自走式を目指す。 ⇒例) 日曜の朝8時になると、地域事業者が各自で朝市と称して店を出す。 ⇒“朝市”という文化にすれば良いのではないか。
• 2年行った結果、参加店舗がカレー屋とお菓子屋に収束した。 ⇒店舗のチョイスが重要。バリエーションが必要。	→ • 拠点のある店舗を核として行う。 (コラボ・POP UPはOK)
(問1より) • 野菜や果物をどのようにして出店するのか。 ⇒首里に畑はない。	→ • 3年あったら畑も可能である。 • ハッピーモア市場(宜野湾市)とコラボ先として誘致する。